

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立庄内小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-1353

岡山県岡山市北区三手 336-2

E-mail shonais@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~shonais/

幼児児童生徒数 男子 295 名 女子 291 名 合計 586 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では、「身近な地域の自然・社会・人々との関わりを通して、地域に対する親しみと愛着を深め、自分の生き方を考える」をテーマに、地域社会との交流や体験的な学習を通して、地域の環境・歴史・文化を守りそれらをより発展させていく「持続可能な社会の担い手」としての児童の育成をめざして取組を進めている。

① 第1学年「むかしのあそびをしてみよう」

地域の高齢者をゲストティーチャーとして招いて、昔の遊びを教えてもらい、一緒に楽しんだり、ゲストティーチャーの子どもの頃の様子についてたずねたりする。手作りの遊び道具のよさを知り、地域の方とのかかわり方を学ぶ。



② 第2学年「まちたんけんをしよう」

学校周辺の町探検を行い、自分たちの町の様子や出会った人々の暮らしについて調べ、まとめて、発表し合うことを通して、自分たちの町のよさや課題、自分たちを見守ってくれる人に気づき、町への愛着を高める。



③ 第3学年Ⅰ「庄内学区の達人を探せ！～栽培の達人を探そう～」

地域住民やJA職員の協力を得て、大豆の植え付けから収穫までを体験している。大豆栽培や収穫した大豆を使ったきなこづくりをとおして、生産の喜びを感じ、先人の知恵を知る。身近な地域での交流や活動から、大豆を中心とする日本の伝統的な食文化を学び、学習の成果とともに、地域の農業のためにこれから自分ができることを発表する。



第3学年Ⅱ「英語の達人を探せ！～JOE先生とお話しよう～」

ALTや地域に住む外国人の協力を得て、歌やゲームなどを通じて英語に親しみ、異文化への興味・関心を高める。

中でも、ハロウィンについて聞いたり調べたりしたことを生かして衣装作りをし、校内でパーティを開く。



④ 第4学年「みんなにやさしい町 庄内」

盲導犬に接したり、車いすに乗ったり押したりする体験等を通して障害者や高齢者の福祉について学び、これらの学習を生かして、地域の高齢者福祉施設の利用者とのふれあい活動を見守りが計画・実践している。自分たちの活動が地域貢献となっていることを実感できる学習が児童の大きな力となっている。



⑤ 第5学年Ⅰ「明日をつくる わたしたち～出会いふれあい学び合い～」

ゲストティーチャーを招き、備中温羅太鼓(和太鼓)の演奏を体験する。練習の成果を学習発表会に取り入れ、地域に伝わる伝統文化のよさを発信する。身近な地域の文化から、日本の伝統文化やそれを取り巻く課題に目を向けて、伝統文化の継承について考える活動を展開している。



第5学年Ⅱ「明日をつくる わたしたち～出会いふれあい学び合い～」

地域の幼稚園児・保育園児と交流活動を行う。園と学校を相互訪問し、一緒に遊んだり給食を食べたりする活動を通して翌年入学してくる子どもたちとのかかわり方を学ぶ。



第5学年Ⅲ「明日をつくる わたしたち～出会いふれあい学び合い～」

郷土に伝わる伝統文化を幼保の園児や地域の方々、さらには外国の方々に伝えるために、日本の代表的な昔話で、岡山との縁も深い「桃太郎」の話に、伝統文化や地域に伝わる温羅伝説を取り入れ英語劇にする。その中で、郷土に対する愛情を深め、身近な地域の伝統文化への思いを高める。



⑥ 第6学年「見つめよう地域を 世界を 自分を」

古代吉備の中心地に位置する学区の文化財見学を通して、地域の歴史や文化とその継承に力を注ぐ人々の思いや努力について学んでいる。その後、世界に目を向け、社会科の学習等とも関連させながら、環境や社会の問題を見つけて調べ、日本(自分たちの地域)と世界との様々なつながりについて考える学習を行っている。



このように、学びを生かして実践につながるような取組を考えたり、学んだことを保護者や地域等に向けて発信したりする学習が、児童一人一人の将来の生き方を考える力となっている。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 業間休み・昼休み)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・「おかやま桃太郎ものがたり 吉備津彦と温羅」 (岡山市観光コンベンション推進課)・「ESD ってなんだ? -はじめて ESD を実践する先生のために-」 (岡山市教育委員会)・「ESD ってなんだ? Vol.2 『ESD を学校ですすめるために』」 (岡山市教育委員会事務局指導課)・「持続可能な開発のための教育(ESD)の更なる推進に向けて」 (日本ユネスコ国内委員会教育小委員会 ESD 特別分科会)・「グローバル人材の育成に向けた地域と協働した岡山型 ESD 推進事業報告書」 (岡山市教育委員会)・「おかやま ESD ウィーク 2015~未来へつなぐ学び・ESD 事業・イベント パンフレット~」 (岡山 ESD 推進協議会)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本活動は、主に、生活科、及び、総合的な学習の時間において実施している。ESD の観点から活動内容を見直し、ESD の特色を打ち出した目標を追加するとともに、新たに年間指導計画を作成した。

また、使用している教科書から、ESD に活用できると思われる教材を抜き出し、学年ごとにまとめた ESD カレンダーを作成した。これを見ることによって、他学年や他教科でどのような学習をどの時期に行っているのかを一望し、学習の重複を避けたり、学びを関連づけたりすることに役立てている。

本中学校区の研究発表会「子どもが輝く学びづくりのプロジェクト」では、総合的な学習の時間の授業を公開し、中学校区全職員で協議会を開き、活動内容や指導について検討した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

4月に「学校教育目標に ESD の視点を入れ、ESD のプロジェクトをつくる」をテーマに講師を招いて研修を実施した。1学期の学年会などでは、全教員で学校教育目標とユネスコスクール申請時に作成したプロジェクトの目標、総合的な学習の時間の目標、各学年の総合的な学習の時間の内容の見直しを行った。夏期研修で、ESD プロジェクトの目標を決定し、ESD コーディネーターに協力していただきながら、各学年の活動内容を見直した。総合的な学習の時間の1年間を子どもの目線でつなぐストーリーを単元に反映させた。また、各学年の活動のつながりをまとめ、全体計画を作成した。

来年度岡山市内で行われる総合的な学習の時間の研究発表校として、校内研究では、総合的な学習の時間を中心に研究を進めている。今年度は、中学年、高学年で、総合的な学習の時間の校内公開授業を実施した。研究推進委員会のメンバーを中心に多くの職員が関わって、学びのプロセスを重視した問題解決型の単元を設定し、指導案検討を重ねた。授業後は、岡山市教育研究研修センターから講師を招き、全職員で協議会を行った。2月の参観日には、本活動の成果を保護者に発表する機会を設けるとともに、ESD の周知を図った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教育課程編成の一環として、問題点を検討した。学年単位の活動が中心になるので、今後は、各学年から1名ずつ部員を集めて部会を作り、学年部に ESD 部員を配置して、具体的な活動を実施していくという意見が出された。ユネスコスクールとしての外部評価は行っていない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

中学校区単位でユネスコスクールに認定されているので、「平成 29 年度ユネスコスクール活動支援助成金対象事業報告書」を通して、同中学校区 1 中学 3 小学校の活動を情報交換することができた。

校内には、ESD 掲示板を設け、各学年の活動についての情宣、ESD の視点の啓蒙を行っている。

また、グローバル人材の育成に向けた地域と協働した岡山型 ESD 推進事業コーディネーターを招いて研修を行った経緯から、岡山市教育委員会事務局指導課が発行する「ESD ってなんだ? Vol. 2」内で、本校の取組が紹介された。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- ・ グローバル人材の育成に向けた地域と協働した岡山型 ESD 推進事業
- ・ 国立大学法人岡山大学総務・企画部 社会連携支援室 地域総合研究センター（アゴラ）
- ・ 造山古墳蘇生会、備中高松城址保存会
- ・ 備中温羅太鼓保存会、庄内保育園、庄内幼稚園
- ・ 岡山市社会福祉協議会、岡山ライオンズクラブ（盲導犬）、高齢者福祉施設職員
- ・ JA、畑の地権者、地域在住の ALT
- ・ 公民館、地域の店舗、地域の公共機関

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- ・ 高松中学校区小中学校
- ・ Grossodia public school (New South Wales) 計画中

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

- ・地域との関わりや地域に対する愛着が増した。
- ・様々な外部人材から刺激を受け、視野が広がり、課題を自分事として考えようとする子どもが増えてきた。
- ・中学校区内の担当者の連携が密になってきた。
- ・児童の思いを実現するためのコーディネート力が高まってきた。
- ・教育課程においてESDを各学年の総合的な学習の時間や各教科に位置付けて、実践を行うようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 【1年生】「むかしのあそびをしてみよう」（生活科，12～1月）
- 【2年生】「まちたんけんをしよう」（生活科 5～11月）
- 【3年生】「庄内学区の達人を探せ！」
（総合的な学習の時間・国語・図工・外国語活動，2～3学期）
- 【4年生】「みんなにやさしい町 庄内」
（総合的な学習の時間・国語・社会，通年）
- 【5年生】「明日をつくる わたしたち～出会い・ふれあい・学び合い～」
（総合的な学習の時間・音楽，通年）
- 【6年生】「見つめよう地域を 世界を 自分を」
（総合的な学習の時間・社会，通年）